

りんご栽培情報第4号

令和2年6月19日
氷見市りんご組合版
富山県高岡農林振興センター

■ 1 生育概況について

北陸地方の梅雨入りは6月11日(平年より1日早い、昨年より4日遅い)となりました。「ふじ」の果実肥大は平年並みです。

■ 2 摘果の見直しについて

大玉果生産のために、仕上げ摘果が終了していない場合は早急に完了するとともに、随時摘果の見直しを行い小果や変形果等の除去に努めて下さい。日当たりが良く、直射日光が当たって赤く色付いている果実は日焼け果になりやすいので、全体の着果量を考慮し、優先的に取り除きます。

■ 3 今後の病害虫防除

回数	時期	対象病害虫	散布薬剤名	希釈倍数	10a当 散布量	100㎡当 必要薬剤(g, cc)	防除実施日 (自己記入)
10	7月4～ 7月6日頃	斑点落葉病、褐斑病、輪紋病 褐斑病 カメムシ類、キンモンホリガ 展着剤	オキシラン水和剤 トップジンM水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 マイリノー	500倍 1,500倍 4,000倍 20,000倍	500㎡	200g 66g 25g 5cc	月 日
11	7月14～ 16日頃	輪紋病、斑点落葉病、褐斑病 アブラムシ類、シカイムシ類、カメムシ類 展着剤	ダイパワー水和剤 スプラサイド水和剤 マイリノー	1,000倍 1,500倍 20,000倍	500㎡	100g 66g 5cc	月 日

※現在、県内でカメムシ類が平年より多く確認されています。7月中旬以降、園地内への飛来が確認される場合は速やかに防除（モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 3回以内 収穫前日まで）を実施してください。

※梅雨時期は褐斑病、輪紋病、斑点落葉病などの重要防除時期であるので、薬剤散布間隔10日以内を厳守します。

※防除は散布ムラのないようにていねいに散布して下さい。特に昨年、褐斑病の発生が多かった園地や、すでに発生が見られる園地では、散布量を増やすなど、対策を強化してください。

※ハダニ類は高温乾燥状態が続くと急増するので、発生密度、種類等の確認に努めてください。

■ 4 カミキリムシ類の対策について

ゴマダラカミキリの成虫（写真1）は6月中旬頃から発生し、7月上旬頃に最盛期になり、クワカミキリの成虫は7月中旬から8月頃に発生します。カミキリムシ類による被害が見られるほ場では成虫の捕殺につとめ、下記の殺虫剤で生育ステージに合わせた防除を行って下さい。

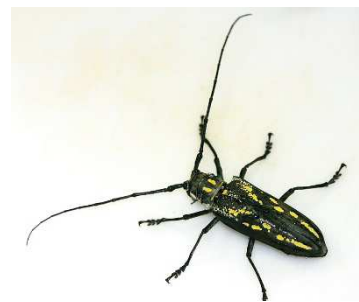


写真1
ゴマダラカミキリムシ成虫

生育ステージ	商品名	特徴
幼虫	ロビンフッド	エアゾール式殺虫剤
成虫	バイオリサ・カミキリ	糸状菌を利用した生物農薬
卵	ガットサイドS	穿孔性害虫の食入、産卵阻止

カミキリムシ類に登録がある殺虫剤

農薬名	希釈倍数	使用時期	総使用回数	使用方法
ロビンフッド	—	収穫前日まで	5回以内	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射
バイオリサ・カミキリ	1樹当たり1本	成虫発生初期（6～7月）	—	地際に近い主幹の分枝部分等に架ける
ガットサイドS	1（原液）～1.5倍	6～7月（産卵初期～産卵最盛期直前）但し収穫30日前まで	3回以内	主幹地際部から約50cmの高さまで塗布する

■ 5 徒長枝の整理について

受光環境の改善や薬剤透過性の向上のため、6月下旬から主幹および主枝基部の周辺（主幹から50cm～1m程度）から発生している新梢切除します（写真2）。なお、主枝骨格枝の背面は日焼け防止と側枝候補枝を確保するため、切除する新梢は必要最小限にとどめましょう。



写真2 新梢管理の例
（左：新梢管理前 右：新梢管理後）